

基老連 ニュース

★47号

基老連の目的

ボケ防止のために、老人同好者の誰かが「基を楽しむ」ことが出来るよう、機会と場所を確保するために相協力し、基を連ねて親睦を図り、更には、より良い福祉社会の建設に貢献することを念願とする。

発行日	平成5年12月8日
発行所	八王子の基を楽しむ老人連
〒193	八王子市初沢町1434-41
TEL	(0426) 66-3754
発行人	熊崎正一

《基老連創立5周年記念特輯号》

基老連臨時総会開催に関する件

日時 平成5年12月4日午後1時
 場所 浅川市民センター (高尾町1652-1, 電66-4700)
 出席者 基老連会長、副会長、常任理事
 議案

★1号議案 24回ボケ防止のための啓蒙用基大会開催に関する件 (参加者は八王子全市の同好者)

開催日	主催	会場	住所	電話
2月27日	浅川 新基老連会	総合福祉センター	東浅川町 551-1	67 133
3月13日	元八	元八市民センター	上巻町 747-1	51 396
3月27日	中野	中野	中野町 2926-1	27 622
4月10日	大和田	大和田	大和田町 5-9-1	45 898
4月24日	由井	由井	片倉町 2380-3	35 802
5月22日	由木	由木	下柳町 648	76 872
6月12日	北野	北野	北野町 543-3	43 044
6月26日	長房	横山事務所	並木町 15-15	61 128
8月7日	基老連	総合福祉センター	東浅川町 551-1	67 133

★2号議案 25回用体対抗戦開催に関する件 (参加者は基老連会員)

開催日	対戦	対戦	対戦	対戦
2月20日	浅川 元八	中野 大和田	北野 由木	由井 長房
3月20日	大和田 浅川	元八 由井	由木 中野	長房 北野
4月17日	浅川 由木	大和田 元八	北野 由井	中野 長房
5月15日	浅川 北野	元八 長房	由木 大和田	由井 中野
6月19日	中野 浅川	北野 元八	長房 大和田	由井 由木
7月17日	浅川 由井	中野 元八	大和田 北野	由木 長房
8月21日	長房 浅川	元八 由木	由井 大和田	北野 中野

注: 左側が主催チーム (1)

才3号議案 才5回碁老連囲碁大会開催に関する件 2,
 (参加者は碁老連会員)

開催日	主催	会場	住所	電話
10月30日	碁老連	総合福祉センター	東成川町 551-1	67 1331

才4号議案 才1回タイトル争奪戦に関する件
 (参加者は地区別タイトル保持者)

開催日	主催	会場	住所	電話
1月30日	碁老連	総合福祉センター	東成川町 551-1	67 1331

注: 八王子名人, 王座, 天狗の3タイトル

才5号議案 才5回NTT碁老連碁決勝大会開催に関する件
 (参加者は八王子全市の囲碁愛好者)

開催日	主催	会場	住所	電話
9月18日	NTT八王子支店	NTT八王子支店ビル	八日町 103	23 9272

注: 碁老連は協賛者として全面的に協力する。

才6号議案 80才以上の大会参加者に特別参加賞贈呈の件

- (1), 80才以上で八王子決勝大会に進出された方には、棋盤賞を贈呈する。
- (2), 85才以上で地区大会に参加された方は、NTT碁老連碁大会に推薦し、祝賀賞を贈呈する。

才7号議案 特別任務の担当者選任に関する件

担当業務	氏名	役職	担当業務	氏名	役職
相談役	三浦 浩		総企画	奥山 和美	副会長
表彰担当	鈴木 氏平	副会長	"	荻 成 進	"
顧問会長	徳 永 悠七郎	"	"	伊藤 栄一	"
研修部長	永 守 若二	"	"	寺本 福寿	"
事務局長	保原野 正清	"	研修部事務長	安藤 久雄	評任理
競技委員長	高 橋 実	"	広報担当	会長兼任(顧問)	会長
経理担当	八木 義光	"			
渉外担当	阪 本 勝	"			
新加入組織	小 西 徹	"			

(2)

3,

オ8号議案 技術顧問(指導員)委嘱に関する件

氏名	生年	住 所	電 話	備考
徳永 悠七郎	大正12年	宇安町	2-20-18 45 7627	顧問会長
荒井 良夫	昭和23 "	小畑町	1053-28 35 5182	" 幹事
東 豊代美	" 3 "	川口町	1540-74 54 2653	
永安 浩二	" 9 "	元野町	3-2157-222 65 1386	
小泉 永知	" 14 "	宇津木町	1066-2 42 9170	
名取 豊彦	" 16 "	元野町	3-2756-150 66 6520	
長崎 洋三	" 16 "	鏡ヶ丘	3-8-102 64 7327	
川中 章	" 17 "	南大沢	3-2-3-501 76 0275	

オ9号議案 平成6年1月現在の名簿作製に関する件

- (1) 八王子市在住の60名以上の有段者名簿
- (2) " " 級位者名簿
- (3) 基老連会員名簿

オ10号議案 平成6年度運動方針に関する件

去る11月26日付を以て、日本棋院に対し「高齢囲碁愛好者のボケ防止対策及び、其の他の件」(別途添付)を提出致しておりますが、本件に関する日本棋院の動向により、改めて運動方針を決定したいと存じますので、当分の間御猶予願います。

尚、本提案に関しては、基老連設立時より八王子市でボケ防止をいこう口々にその効果は微々たるもので、日本全国に浸透させること等不可能に近い問題だと思料致しておりました。

従って、小生の真意としては、当初より囲碁の総本山である日本棋院がやるべき事柄であり、又、現在の様な情勢下では積極的に対応するのが義務でもあるとの認識を以ておりました。

是れ故、先づ「基老連の体制作りと実績の積み重ねを通じ、これなら行ける」との自信が持てるようになりましたので提案上踏切った次第です。

囲碁界の状況は、老人問題と学校教育問題に関しては非常事態とも云うべきであり、等閑視することなど許されることではありません。

日本棋院としても必ず策を出して頂けるものと確信している次第です。

以上

前記10議案に関し、御審議の上御承認を頂戴しました。

(3)

「お孫さんと囲碁の午ほどき」を拝唱

4,

高令下社会を迎え、政府は来年度予算で高齢者福祉事業に關しては、最重要事項として対応する趣と拝承致しております。

我々老人にとりましても、旧來のよくな“余生を、碁を樂しみながら樂悠居”などと呑気に構えている時代ではないようです。

この際、政府の御配慮とお礼を兼ねるためにも、氣力を振り絞つて、国や社会のために一肌脱いで頂こうという寸法です。

即ち、皆さん方は穿にも囲碁と云う最高の特技を持つていらつゞけるので、これを活用し、社会奉仕のつもりで、碁の午ほどきと共に、小学6年生位いまで御指導して頂きたいと云うことです。

その見返りとして、お孫さんの成長振りを樂しみながら余生を送れる等、幸福に満ちた老後生活を満喫出来るのではないのでしょうか。

さて、囲碁の効能について、次のような情報をお知らせ申し上げます。

1. 小学校教育は、知識一辺倒の詰め込み主義を強制し、その結果として、無氣力な左脳人間が数多く出来上つていようであるが、それに反し、囲碁は右脳の基本的訓練、即ち、思考力、創造力、記憶力、更には、集中力、忍耐カ、決断力などを養成し、自然の中に、論理的応用カ、全体を見る目を養うなど、柔軟な思考方法を身につけるのである。

2. 囲碁を単なる遊ばと考へ、勉強のせがれになるなどと考へている人は、全く時を逸れ過ぎだしい。

即ち、学習は左脳中心で、囲碁は右脳主体であるために、むしろ学習で疲れた脳を囲碁で活性化させる効果が認められている。

3. 將來、日本を背負つて立ち、世界平和に貢献し得る人材を確保するためには、積極的に右脳開発に努力し、知育、体育、徳育、が一体となったバランスのとれた人格の持ち手を養成せねばならない。

即ち、囲碁は、その目的達成のための重要な要素を占めているのである。

4. 前記3項目で申し述べたように、有能な人材の育成が至眼であつて、碁打ち人間を作るのが目的ではないと云うことを理解して頂きたい。

次に、特に囲碁の午ほどきについて、御参考までに申し上げますが、1才から3才までは当初、碁石や碁盤をおもちやとして自由に遊ばせぬ。

次々と馴れてくるに従つて、碁の並べ方を教れたり、2人での対局を見せたり等、知らず知らずのうちに、碁は一人では打てない、簡単に自由なゲームだが変化があり、創造があり、未知の世界への無限の興味さ、魅力のよさを感ぜたり、いわゆる、感性を身につけるのである。

但し、次のような三つの重要ポイントに留意しなくてはなりません。


即ち、才1は、くり返しくり返しやること、才2は、説明は録音で初ること(理屈必説明は4才以降でなくては判らぬ)、才3は、初果を急がないこと、等である。理解する事と知る事は全く別である。その効果が現われるのは4才以降で、素晴らしい能力と成つて開花することは必定である。

以上

(4)

財団法人 日本棋院
常務理事 大坂雄介様

平成5年11月26日

八王子の碁を築く老人連合
会長 熊崎正 

高齢囲碁愛好者のボケ防止対策及びその他の件に関する提案

我国は今後益々高齢化が進む状況下であり、人口の30%程度が高齢者に占められるものと予測されており、

政府においては、昨年来「ボケ老人対策」を最重要案件として取組まれておりますが、期待通りの成果があらざる対応に苦慮されているようです。

然るに、このような状況下にも拘らず、老人団体は吾れ國せざる状態を続けられており、全く無責任と云わざるを得ません。

ボケ老人の予防問題は、当然のことながら老人自身が対応せねばならない事柄であつて、その責任の重大さを自覚し、ボケ防止のための早急な積極的対応が望まれます。

日本棋院といたし、老人囲碁愛好者団体については、新たな観点に於て、「社会奉仕事業」としてボケ防止問題を早急に採り上げねばならないと存じております。

即ち、ボケ防止のためには「囲碁が最適」だとの定評があります。

其の上、更に重要なことは、60才以上の定年退職者で「低い級位の方選は、碁を打つ機会や場所にも恵まれず、殆んど碁を止めてしまわざるを得ないような状態に追い込まれており、全国的に見れば百万人以上と想定され、更に毎年の如く累増している。

このような状態を打開し、救済方法を講ずることが急務であると確信しているからで、

特に、ボケ防止問題に関しては、老人向趣味群の全国的団体に對し、日本棋院が先鞭をつけ、指導体制の確立が期待される次第です。

更に、前記要望と共に囲碁界の重要事項として、学校教育問題を提起したいと存じます。御承知の如く学校教育は智識の習得であり、主として左脳を刺激し、囲碁は右脳と云われており、感性豊かな人間形成に格別の効果が認められております。

又、右脳開発に最適だと云われている囲碁や将棋、絵画なども理想的習得期間は、幼稚園より小学校卒業位にまでが限度だとされております。

従つて、この際、小学校の教育に囲碁の導入提唱を旨とするための啓発運動と具体的な実践行動を確立して頂きたいと云うことでは。

以上二件が実施された場合の囲碁界の前途は洋々たるものがあり、将来の輝かしい展望を確信致しております。

よろしく御検討下さいますようお願い申し上げます。

尚、本提案を御採り上げ頂けるものとして、日本棋院の立場で「澤意上」の方策を勝算ながら下記の通り提案させて頂きます。

記

1. 日本棋院 社会福祉事業推進委員会(依頼)の設立
常務理事を委員長とし、普及部長、事業部長、新聞部長及び其他(園田中郎

(5)

2.

の担当者等)を委員とする。

本部に専任の事務局長をおき、各都道府県の所在地に推進員を駐在させる。

- 2. 日本ボケ防止対策協議会(仮稱)の設立 (公的の独立団体)
 発起人 折茂 肇先生 (東大医学部教授), 金子満雄先生 (済生会医科大学副院長),
 河野貴美子先生 (日本医科科学情報処理室長), 天洲義照先生 (棋道研究家),
 渡辺文雄先生 (日本棋院理事長), 他。 (各氏実現在米確認)

- 3. 諸先生方の御意見 (著書や新聞記事の抜粋)

折茂 肇先生

- (1) 高齢化社会が進み、いわゆる“ボケ”の問題が注目されている。
 ボケの中でアルツハイマー型老年期痴呆は原因が不明でその予防も難かいが、
 頭を使わないために起こる、いわゆる 廃用性痴呆の方は脳の細胞を刺激する
 ことでその予防はある程度可能である。
- (2) 人間の脳は鍛えればいくつでも発散性がある。
 囲碁はとりゆう可能性、ポテンシリティー (潜在力)を示してくれたいと云う点で非
 常に意義がある。
- (3) 囲碁は、右脳の活性化を促し、廃用性痴呆を防ぐ効果がある。

金子満雄先生

- (1) 「心から喜ぶことを楽しむ人はボケるはずがない」というのは“永年の経験による私の
 信念だ”。
- (2) 痴呆症で重症痴呆(アルツハイマー型)は治療しても無効だ。
- (3) 軽症痴呆は、脳の訓練や肉体的訓練を必要とし、入院加療が求められま
 すが、成程度まで復帰は可能である。
- (4) 前痴呆の段階で早期発見出来れば、治療やリハビリ法がよければ、充分社会
 復帰が可能である。
- (5) 60才を過ぎたらボケ老人にならぬよう予防テストを行い、改善を期すべきである。

田川 義也先生 (日本医科大学教授)

- (1) メモに頼る人は完全な左脳人間である。
- (2) 左脳を使う人は早く老化を迎える。
- (3) 頭が疲れるのは、左脳が邪魔するからだ。
- (4) 頭が悪かつたりは、右脳が使えるかつたためだ。
- (5) どんなに勉強したって頭は良くならない。
- (6) 天才、秀才は右脳活用人間にしか生れない。
- (7) 「楽しみながらゲームをやる」と云うのが、すべての右脳刺激法の大原則で
 ある。

天野義照先生

- (1) 幼児教育は、3才位までが効果的であるが、幼稚園、小学校、中学校等で
 囲碁を学校教育に導入することを提唱する。
 ①、現代の子供に欠けている感性を喚起する。

(6)

ロ、集中力、忍耐力ができ、ねばる心が身につく。

ハ、思慮力、応用力、決断力を身に付けるなど頭脳の訓練が出来る。

(2) 真に人を動かすのは、知性でも、理性でもなく、感性である。
その感性を囲碁が育てるのである。

(3) 知育、体育、徳育が一体となったバランス人間が日本の未来を背負って立つ。

4. 全国各都市に都市別囲碁連設立のために積極的な指導、協力をを行う。

囲碁連の目的は、ボケ防止のために、老人囲碁同好者の誰もが「碁を樂こむ」ことが出来るよう、機会と場所を確保するために相模カン、囲碁を通じて親睦を図り更に、より良い福祉社会の建設に貢献することを念頭とする。

(1)、都市別囲碁連は、その傘下に、地域別囲碁同好会(有役者)と地域別昇碁会(級位者)を設立する。

(2)、碁連の事業

イ、各地区の老人会に囲碁部の開設を要請する。

ロ、市の福祉会館、市民センター等の施設及び「町会や団地の自民会館等に囲碁の施設を要請する。

ハ、碁連研修部の開設

有役者と級位者別の定員制による研修会を定期的に開催する。

ニ、碁連主催の各種囲碁大会を開催する。

イ、市内在住の老人囲碁愛好者を対象とする、「各地域別のボケ防止のための碁連囲碁大会」及び「決勝大会」

尚、80才以上で、決勝大会への参加者には、棋歴賞(特別参加賞)を贈呈する。

(ロ)、碁連囲碁大会(会員のみ)

(ハ)、碁連団体對抗戦(会員のみ)

(ニ)、碁連タイトル(名人、王座、天狗)単奪戦(会員のみ)

(ホ)、敬老囲碁大会(親大会)碁連協賛

ボケ防止のための碁連囲碁決勝大会の成績により推薦する。

又、85才以上で「地域大会」への参加者は成績には関係なく推薦する。

尚、碁連より祝寿賞(特別参加賞)を贈呈する。

ホ、小学校のクラブ活動(囲碁部)の指導に協力する。

ヘ、囲碁の老人初心者講座に専員を派遣する。

ト、養老院、其他公的老人施設の要請に応じ、慰安要員を派遣する。

ケ、会員に対し、家族に碁の午ほとを勧奨する。

特に、お孫さん(1才から)が理想的への指導を重点とする。

5、日本ボケ防止対策協議会の提言を元に、日本棋院社会福祉事業推進委員会を以て、厚生省及び全国老人クラブ連合会に対し、ボケ防止対策の実施を要請する。

6、推進委員会の事業遂行のために、日本棋院所属の棋士及び指導員を任用する。

7、小学校の学習に囲碁を導入する件

大塚むつみ「問題々々」短期間内の解決は困難だと思料致しており未方が、とりあ

(7)

4.

が、推進委員会名により文部省に要請する。

8. 小学校のクラブ活動について

小学生の要請があれば、囲碁、将棋、オセロが一単位となって採用されることになっておりながら、最近、小学生間にテレビゲームが流行しており、各学級共申請が有りなく、殆んど実施されていないような状況です。

それと共に、教師に囲碁指導者が少ないためと、設備の問題等で、学校側としてもう逸気味な傾向が強まっているようです。

現在学習導入の見込みは殆んど無いと云つても過言ではないような状況ですが、不可能ではなく、転換が条件としては、全国の小学校においてクラブ活動の充実と活性化と云われておりませう。

この際、推進委員会としては、次のよう方針により根気よく対応して行くことが必要と
(1) 全国の老人囲碁同好者に対し、その人生を国家の人材育成事業に活かすため、老人パワーの發揮を要請する。

むつかしい事ではありません、お孫さんに暮の年ほどきをおくること、同時に学校に対し、囲碁クラブの開設を要請して頂くことです。

(2) 小学校のクラブ活動に全面的に協力し、指導員の派遣を図る。

(1) 市の教育委員会に対し、幼年期における囲碁の学習の重要性について理解して頂くよう、最善の努力を盡す。

結果

ボケ防止運動に関する過去の体験談と現在の心境について、おこがましいですが御参考までに申述べて頂きます。

基友連を設立した平成元年当時は、ボケ防止と云う言葉に対し、嫌がられたり笑われたりしましたが、平成3年オノ一回ボケ防止のための啓発囲碁大会と総括つて回覧用チラシを数万枚を作成し、全市の町会や老人会に配布しました。会場もオケ所の市民センターで開催致しました。

今年で3回目を実施しましたが、最近では、市当局や一般市民の方々もボケ防止のための囲碁が理解されて来ているように見受けられます。

特に、逸草専門の諸先生方による「ボケ防止には碁が最適」との御意見がーに浸透、普及されて来られた結果と受け止め感謝致しております。

日本棋院としても、囲碁界の将来のために堂々と胸を張って、ボケ防止のために積極的の反響対応を期待致しております。

以上

追記

ボケ防止及び囲碁に関する下記先生方の著書を御参考までに添付致します。

- 金子福雄先生著
- (政)品川嘉也先生著
- 天川義照先生著

- 老人性痴呆の正しい智識 (南江堂)
- 頭が突然鋭くなる、右脳刺激法 (青春出版社)
- 囲碁のある豊かな人生 (碁書房)

基老連開設5週年に際し、築いた思いと希望に満ちた門水を祝う

昭和61年朔命寺より八王子へ転居して参りました。
其の当時、近人にボケ老人が居られたが、御家族の方達は、日24時間いつとき
目が放さないとか、又、若奥さんは年中寝間着で休まれたことがない等、誠に悲惨な
ご家庭でお気の毒と申し上げるより外なく、それと同時にボケ予防問題に関する政府の考
慮上は義務を感じざるを得ません。

この時来で、私は大木のお医者さんから「基打ちにボケはいない」と云われ、これを思い立
改めて、自分の余生は、ボケ防止のために基を築用し、社会のために少しでもお役に立
たいと決心し、基老連の設立を計画しましたような次第です。

さて、昭和61年当時、福祉会館(大橋町)囲碁部の会員約130名は全市より参加され
おりましたが、参加理由の殆んどは地元と囲碁部がないと云うこと、紛らわしがなく気が
基が打てると云う事のようにした。

当時、八王子市内には市民センターが8ヶ所あり、利用者が老人専門の囲碁団体は4ヶ所も
秘んでいたので、8地区に、寿囲碁同好会(有級者)と寿基築会(級位者)の設立を定めました。

ここで、お金の問題は会員の募集はどうするかであり、新聞や新聞、情報誌等を検討しま
すが、募集欄を老人が直接見る事は余り期待出来ないとの意見が多く、先づは囲碁愛好者
達の作成が急務だと云うことになりました。

町会や老人会の囲碁部調査と、日本棋院発行の有級者名簿(57年版及び61年版)より福生
愛好者と、前記の福祉会館囲碁部の130名等を集計し、8地区別の名簿作成のための段
に着手することになりましたが、其の間の経緯について次頁より御報告します。

(1) 町会、老人会の囲碁部調査については、囲碁部のある町会や老人会が不明で御在
り当否との連絡が件々出来ない事、プライバシー問題で生年月日と云われられたり、等々で
送附致しました。

結局、半年以上も莫大に、不十分ながらもどうにか取りまとめることが出来ました。

(2) 日本棋院の有級者名簿には生年月日や電話番号が乗っていないので、福生者全員の電
を調査し、其の上で、本人の生年月日及び実際に使用されている級・級位を尋ね、同
同好会が設立される場合、参加されるか否かの確認を求めたこと致しました。
但し、電話番号を集めていない(隠居した人、学生、電話登録者の同居人)が多数あり、ハ
ガキにより強念致しましたが、回答の約7割は10%ほど残らない数でした。

(3) 62年末までに各市民センター別の有級者(寿囲碁同好会)と級位者(寿基築会)の名簿
規約がようやく出来上りました。

以上により、いよいよ寿囲碁同好会及び寿基築会を開設するための準備作業として次のよう
な置を構築することとしました。(右置を権置のつもりで)

(1) 各市民センターには無断で、1ヶ月間から3ヶ月間に亘り、主曜日、日曜日の使用状況を毎
本向いて調査致しました。

その結果、例会日は月3回とし、寿囲碁同好会は土曜日か日曜日、寿基築会は土曜日
と決めました。

(2) 市民センターの使用許可を得るため、事前に各館長を訪問し、規約及び名簿を提
致し、概旨や老人囲碁界の事情などを御説明し、御了解を求めましたが、どの市民セ
も、老人囲碁だけが週2回使用することは認められないので、有級者と級位者が一緒
は良いではないかとの御意向のようでした。

然しながら、市民センターには基盤10面どころか20人以上は対応出来ないで、現時
は、寿基築会の設立は残念ながら見送るより他途なく、時機を見て再開を図りますので、
取願います。(と云う事で、已むを得ないといふながらも、級位者達とは相当非難されよう
以上のような状態にて、新参者の基老連が割込むことのむづかしさを嫌と云う程思い知ら
(次葉へ)

(前頁の)

余り良い印象は残っておりませんが、好意的に御扱が下さった市民センターもありました。いよいよ詳細が定まりましたので、昭和63年9月3日綾川町囲碁同好会の開設を皮切りに、平成元年9月24日まで、8ヶ所に囲碁同好会を開設しました。

その結果、平成元年11月12日に希望の碁連連発足を見ましたよな次第です。

その後の5年間については、次の2件について特筆されて頂きます。

(1)、5年9月4日、金子福雄先生(碁松連発センター副会長)とボウボウ防止に関する御講演(先生
の御好意による)と研修会同碁大会参加者74名の全員(必が欠員が出るものと覚悟しており
ました)が、脳機能テストに参加された事に深い感銘を覚えました。

(2)、5年11月26日付の日本棋院紙の掲載(別紙)は、碁連建設当時の期望であつて、この
件が解決されるまで交渉を継続して行くつもりです。

最後に、碁連連の現状について、次のように御報告申し上げます。

(1)、会員の推移状況

囲碁同好会	63年7月現在参加申込			開設時		平成元年 11月
	有級者	級位者	新	開設日	参加者	
綾川	30	18	48	昭和63年9月3日	30	40
北野	15	11	26	平成元年1月7日	16	30
由井	19	14	33	" " 2月4日	22	23
元入壬子	20	11	31	" " 3月4日	17	33
壬子	24	16	40	" " 3月18日	21	18
大和田	33	30	63	" " 4月23日	27	35
由(中)木	14	12	26	" " 9月23日	17	24
長野	17	14	31	" " 9月24日	13	28
中野			(平成2年3月13日 大和田より分離)			27
由木東			(平成4年10月11日 由木より分離)			16
計	172	126	298		163	274

(2)、囲碁同好会の事業

1、同好会内の競技会

- (1)、地区名人戦(3月と6月と9月と12月の年2回、会員総当りリーグ戦)
- (2)、地区王座戦(1月と7月の年2回、トーナメント戦(敗者復活))
- (3)、地区天狗戦(2月と8月の年2回、トーナメント戦(通年))

2、碁連連競技大会へ参加

- (1)、碁連連団体対抗戦(毎月3日曜日、年4回)初級あり6級まで6人でゲーム編成。
- (2)、碁連連囲碁大会(年1回、個人戦、会員は全員参加)
- (3)、碁連連タイトル争奪戦(年1回、地区タイトル保持者が参加)
- (4)、ボウボウ防止のための碁松連発地区大会(年1回、地区内の囲碁愛好者)
- (5)、NTT碁松連発碁松大会(年1回、入会会中の囲碁愛好者)

(3)、碁連連研修会について

碁松連発会の開設を中止しました関係上、級位者の方より碁会開催の要望が寄せられており
ましたので、平成3年10月より6ヶ月間を碁連として有級者40名、級位者40名計80名の定
員制で研修会を開設しましたが、引続き本年10月より平成3年3月までの5回研修会を実施して参
りました。毎回の申込みが早く、保級者が多数出るため、何の解決策も検討中です。

(4)、碁連連ニュースの発行

平成2年2月の創刊号以来、平成5年12月まで47号まで欠巻もなく継続してあります。
現在の発行部数は440部で、内容は次の通り

会費取部 238部、研修会非会員分 56部、関係紙面分(郵送68部) 88部、保級分 10部

以上